

2018年8月23日

2018年7月 東京23区 - 0.1%の3,481円/m² 新築事例の減少や季節要因などで弱含む状況が続く

三大都市圏・主要都市別/分譲マンション賃料月別推移

首都圏7月 前月比+0.1%の2,746円/m² 東京都では3カ月連続の下落

近畿圏では5カ月連続の下落 中部圏の正味トレンドは依然下落傾向で推移

2018年7月の首都圏・分譲マンション賃料は、前月比+0.1%の2,746円/m²とさほど目立った動きはなかった。都県別で見ると、東京都では-0.3%の3,297円/m²と3カ月連続のマイナス、神奈川県でも-1.2%の2,122円/m²と4月以降は下落傾向を示している。一方、埼玉県(+0.4%、1,630円/m²)や千葉県(+3.0%、1,588円/m²)では上昇しており、特に千葉市や浦安市など主だった行政区の大半で平均築年数が若返った千葉県の上昇率は比較的大きくなっている。

近畿圏では主要エリアが揃ってマイナスとなったことで、前月比-0.7%の1,823円/m²と5カ月連続の下落となった。大阪府では大阪市や隣接する豊中市で築古物件からの事例が増えたこともあり、-1.0%の2,138円/m²と引き続き下落した。兵庫県では大きく下げた神戸市の影響を受けて、-1.6%の1,612円/m²と依然として下落トレンドが続いている。

中部圏では前月比+0.4%の1,747円/m²、愛知県では+0.3%の1,786円/m²と、4カ月ぶりに上昇に転じた。ただし、正味トレンド自体に限ってみれば、3月~4月を境にピークアウトしており、下落傾向で推移している状況に変わりはない。

※詳細なデータや分析内容についてはこちらの[プレスリリース](#)をご覧ください

データについては無断で転載、利用することを禁じます。